

第 5 学 年

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
ー グループによる話し合い活動を通して ー

2 育てたい力

◆表現力

- 自分のアイデアや思いを友達にわかりやすく伝えることができる。
- 言葉・身体・作品などを手段とし、自信を持ってみんなの前で発表できる。

◆コミュニケーション力

- 友達それぞれの技能や考えを尊重しつつ、自分の意見を述べることができる。
- 自分の考えにそぐわなくても、集団として決定した事柄に対して前向きに取り組むことができる。

3 研究の視点と手だて

[視点 1] 互いの技能や考えを尊重しつつ、意見交換ができるような活動の工夫

- 活発に意見交換できる、グループ活動にふさわしい題材研究
- 話し合い・発表をする場の設定

[視点 2] 学習シートの工夫

- 自分のアイデアをわかりやすく伝えるための学習シート
- 話し合いを生かしながらまとめていくための学習シート

[視点 3] コミュニケーション力を高める日常的な活動

- エンカウンターを取り入れた活動による人間関係作り . . . 1 組
 - 新聞記事をもとにしたスピーチの発表 . . . 2 組
 - 五色百人一首による人間関係作り . . . 3 組
- 学級通信を通じた児童の相互理解（日記や活動の紹介を通して）

第5学年 成果と課題

5学年は、高学年となって委員会活動が始まったり、野外活動で1泊2日の活動をしたりするなど、自分たちで考え自分たちで行動する、といった場面が多くなる。その際、目的に向かって話し合いを進めていくには、いろいろな場面で相手との意見のくいちがいが生じたり話し合いが効率よく進まなかったりする状況が発生していくと思われる。また、学習においては、自ら学び、より高いものを求めて追求する姿が望まれる段階である。

そこで、本年度の研究主題「表現力・コミュニケーション力を高める指導法の工夫」を受け、5年生としては教科を絞らず、どの学習においてもグループによる話し合い活動を取り入れた学習の展開を進めていこうと考え、サブテーマ～グループによる話し合い活動を通して～と設定した。

人間関係の基盤を作ることで、安心して自分の考えを自分の言葉で話せ、相手のことを考えた言い方ができる子供を育てていきたいと考えた。

〔視点1〕互いの技能や考えを尊重しつつ、意見交換ができるような活動の工夫

○国語のグループ討議、音楽のグループアンサンブル、体育の集団演技と、いろいろな教科においてグループ活動にふさわしい題材を設定し、自分の考えを持って意見交換する場面を作ることができた。相手を尊重した言い方ができ、個人の技能・表現の不足を友達との励まし合いによって、高めていこうとする姿が見られた。

▲グループの編成にも人数、目的別などの配慮がありリーダーの役割などの指導も大切となってくる。個人の技能・表現を高めることをねらいとした教科そのもののねらいが、グループの発表に気をとらわれてしまいぼやけてしまった感じが残った。

〔視点2〕学習シートの工夫

○話し合いをスムーズに進めるために、まず、自分のアイデアをわかりやすく伝えるための学習シートによって、しっかり自分の考えを持たせることが大切だと確認した。その上で、子供たちは話し合いの方向性を知り、安心して活動を進めていく姿につながっていくということがわかった。

▲個人の思いや考えを引き出す学習シートを教科・題材によってさらに工夫していく必要があると思われる。

〔視点3〕コミュニケーション力を高める日常的な活動

○1組・・・朝の会のサイコロトークキングを行い、自分の考えを発表する場面を設けてきた。サイコロの目によってスピーチのテーマが変わり、その場で話す内容を考えて発表するため、初めは考えをまとめられずに次の日に出直す子どももいた。慣れていくうちにその数は少なくなり、今では抵抗なくスピーチをしている。自分の思いや考えをはずかしがらずに発表し、友達の話聞くことでも相互理解も図られている。

○2組・・・新聞記事をもとにしたスピーチの発表は、『いっしょに国語』の冒頭にも取り上げられており、国語教材として継続をねらっているものである。事前に準備してくるため、自分の考えもはっきりした声で読み上げることができる。社会や総合的な学習の時間にも関連した記事を選んできることが多く、担任が解説を加えたり、感想を学級全体へと広げたりしてきた。新聞・ニュースを見る機会が増え、考えを持つということを常に意識してきている。

○3組・・・五色百人一首を継続して行うことで、覚えようとする意欲だけでなく男女間の仲をよくしたり、組み合わせが変化するので多くの人とのコミュニケーションが図られたりする効果がある。表現力を高める手だてとしては、児童が書く日記や活動を学級通信に掲載し紹介することによって相互理解を深めてきた。相手にいやな感じを持たせないように、言い方を考えて話すなど学級の人間関係作りを基盤に研究を進めることができた。

児童の意識調査の結果で変容の見られた項目に、（あいさつができるようになった）（みんなの前で自分の考えを話せるようになった）の2つがあげられる。これは、安心して学校・学級生活を送っている表れと読みとることができる。さらに、全校的な立場で考え行動していかなければならない最高学年としての表現力・コミュニケーション力を高めていきたいものである。